

Offshore

No.198 DECEMBER 1991

12



2

静岡
第1094号

MERIT

'91三洋証券ニッポン



レース3日目セミファイナル、ギルモア対ディクソン

カップ国際ヨットマッチレース



葉山フリートキャプテン
マリーナヨットクラブ
田中一美

手探りで始めたニッポンカップ国際ヨットマッチレースも今回で5回目をむかえた。

アメリカスカップ本番を来年にひかえ、オリンピックでのマッチレースの採用、日本水域でのマッチレースの開催などムードが高まった中で行われた今大会は、内外から注目された。主催クラブの葉山マリーナヨットクラブ（以後HMYCと略す）も例年のごとく会員を動員して準備万端とのえ本番を迎えた。

前回までの経験を踏まえギャラリーに海から、陸からマッチレースを楽しんでもらうため、以下の3点を変更した。

- ①アメリカスカップ挑戦の各国シンジケートからスキッパーを招待すること。
- ②逗子湾の奥までコースをひくこと。（あぶずり港への水路の確保と披露山下の暗岩を避けるため中間にゲートを設けた）
- ③マッチレースのトレンドでもあり、マーク回航を面白くかつ見やすくするため下スタート、時計回り2周流し込みフィニッシュとする。

前述のごとく今回はアメリカスカップの前の年でもあり、多くのアメリカスカップキッパーを招待しようとのことで、今回に限りホストクラブであるHMYCの枠を提供。そして招待スキッパー7名と日本代表1名でニッポンカップのクリスタルトロフィを賭け、YAMAHA34Sの新艇を使用してイーブンコンディションのもと、4日間の戦いが始



決勝第1レース、コステキが差をつめる

また。

招待スキーパーは第1回からの参加でワールドマッチレースランキング第1位のディクソン（ニッポンチャレンジ）、同第2位のギルモア（豪）、コステキ（米）、パジョ（仏）ケイヤード（伊）、カンポス（西）、南波（ニッポンチャレンジ）と浜名湖のプレニッポンカップと国内予選を勝ち抜いて来た高木の8チームである。

国内予選は浜名湖の29チームから勝ち抜いてきた6チームと、HMY-Cの代表2チームで、本戦1週間前の11月2・3に本戦と同じ艇・コースで行われ、決勝戦で戸谷チームを2勝1敗で破った高木チームが初出場となった。本戦は別表のごとくピーター・ギルモアが2度目のニッポンカップを獲得した。全般に風が弱かったにもかかわらず（MAX-8m/s）各マッチ共、来年のアメリカスカップを意識してか、随所にさすがと思わせるマッチレース特有のテクニックを使っての接近戦が見

られた。特にスタート前のマニューバリングとマーク回航時は凄まじく、一瞬たりとも気が抜けない状態で、殺氣すら感じられた。例えばギルモアVSコステキの決勝第1戦は、スタート前のマニューバリングでコステキにペナルティーを与え、一気に大差をつけて上マークを回った。しかし、コステキの走らせ方は流石で、J24欧洲チャンピオン、ソウルオリンピック・ソーリング級銀メダリストに相応しく、フィニッシュ時にはその差をあわやと思わせる数秒まで詰めきった。コステキは年齢も27才と若く、マッチレースの経験を積んだら素晴らしい選手になると思わせる片鱗を見せてくれた。（今大会ではギルモア、ディクソンらが仕掛けてもあえて接近戦を避けてスピードで勝負している様に見えたが）。

それにしても日本選手のレベルはまだまだで、南波にしても高木にしてもそれなりに良く走ってはいるが勝てない状態であった。これはマッチレースの基礎である『前に出たら

徹底的に押さえること』が甘く、また外国選手に見られるような『何がなんでも勝つ』という気概・気迫も欠けてることが原因ではないか。

今回もミニFM局（JONZ-FM）と、NHK総合TVが全国放映したので、NORCの会員諸兄も海からまた茶の間に楽しまれたことと思うが今回の新技術は1号艇と2号艇に搭載したGPSによるリアルタイムの航跡表示である。これにより今まで以上に2艇の位置関係、駆け引きが判り、今後のマッチレースTV放送の1つのスタンダードになるのであろう。

最後に印象的で感激したのは、ディクソンを準決勝で破り、決勝で1勝1敗の後コステキに勝って優勝した瞬間のギルモアの嬉しそうな顔とフォグフォーンの中を選手、ジュリーが本部艇に手を振ってハーバーに戻って行く時であった。これは選手、ジュリーと我々ミッティ側との信頼関係の現れであり、これで数か月間の苦労も報われた。

1991 NIPPON CUP RACE RESULT



決勝第3レース、ギルモア優勝決定の瞬間

ROUND ROBIN SERIES Nov.7.8th



Skipper

A B C D E F G H Score Ranking

P. Gilmour	A		○	○	○	○	×	○	×	5	2
Y. Takagi	B	×		×	×	×	×	×	×	0	8
C. Dickson	C	×	○		○	○	○	○	×	5	2
P. Campos	D	×	○	×		○	×	×	×	2	7
M. Pajot	E	×	○	×	×		×	○	○	3	5
P. Cayard	F	○	○	×	○	○		○	×	5	2
M. Namba	G	×	○	×	○	×	×		×	2	6
J. Kostecki	H	○	○	○	○	○	×	○	○	6	1

FINAL

1	P. Gilmour
2	J. Kostecki
3	P. Cayard
4	C. Dickson
5	P. Campos
6	M. Pajot
7	M. Namba
8	Y. Takagi

SEMI-FINAL SERIES Nov. 9th

(best of three matches)



VISION I

Skipper Score

J. Kostecki	○	×	○	2
P. Cayard	×	○	×	1

P. Gilmour	○	○	/	2
C. Dickson	×	×	/	0

DIVISION II

M. Pajot	○	○	/	2
Y. Takagi	×	×	/	0

M. Namba	×	○	×	1
P. Campos	○	×	○	2

FINAL SERIES Nov. 10th

(best of three matches)

Skipper

Score

J. Kostecki	×	○	×	1
P. Gilmour	○	×	○	2

P. Cayard	×	○	○	2
C. Dickson	○	×	×	1

(one match)

M. Pajot	×	0
P. Campos	○	1

Y. Takagi	×	0
M. Namba	○	1



’91 インターナショナル50フッターワールドカップシリーズ
イン ジャパン



11月1日～11月4日にかけて開催された「50フィート・ワールドカップ・インジャパン」最終戦は、神奈川県三浦佐島沖で幕を閉じた。

最初の2日間、1レース～4レースまでは、風のコンディションも良く、世界最強のヨットマン達の熱戦がくりひろげられた。しかし、3日目は秋晴れの好天に恵まれたものの、

高気圧にみまわれ、第5レースは成立せず、最終日の4日に5レース、6レースが行われる予定となった。

しかしながら、最終回も好天に恵まれたものの、微風。8:00スタートから12時近くまでまったく風の出る気配もなく、4レースのみが消化される結果となった。

国際50フィートヨット協会のルールによると、4レース消化されれば試合は成立となるため、最終日のレースが行われなくとも総合順位が決定されることになった。

この4レースのみの大会で優勝したのは、「マンドラーーケ」(イタリア)であった。このヘルムスマンを努めたのは、昨年「アブラカダabra」のヘルムスマンとして、ワールドカップで優勝しているジョン・ユ

リウスだった。

国際50フィートヨット協会日本支部会長、盛田正敏氏の「チャンポサVII」(日本)も善戦したが、第4位にとどまった。

「91国際90フィート・ワールドカップ・インジャパン」に出場した13艇は、この後日本を離れ、1992年のサーキットの為フロリダに送られることになっている。1992年には、これらの艇は、北アメリカとヨーロッパでレースをすることになっている。1993年国際50フィールド・ワールドカップの最終戦は、この日本の三浦で開催する予定である。各艇のオーナー、選手達は、再び日本で戦う日を楽しみに離日した。

なお年間を通しての本年度総合優勝が「アブラカダabra」に決定した。

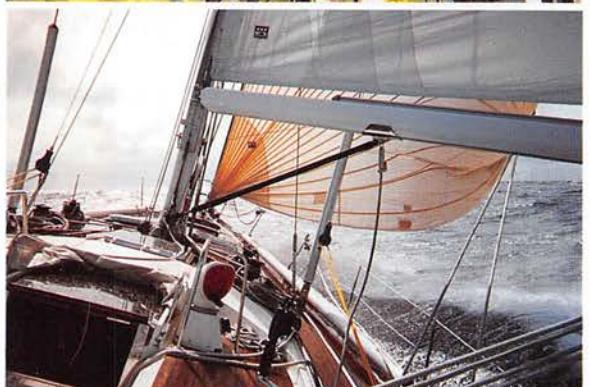
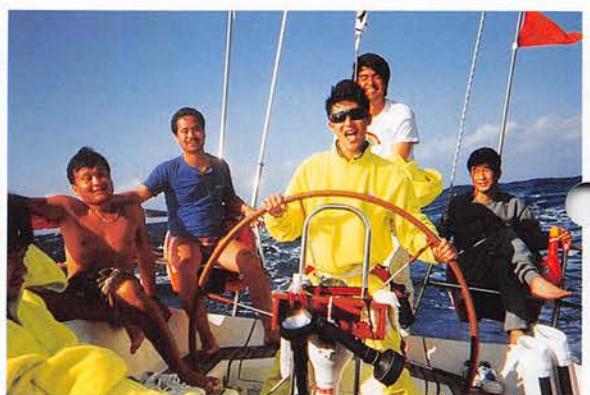
INTERNATIONAL 50' YACHT ASSOCIATION 1991 WORLD CUP SERIES RESULTS

BOAT NAME	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	TOTAL POINTS
MANDRAKE マンドラーーケ	. 7 5 1	4. 0 0 4	3. 0 0 3	2. 0 0 2	9. 7 5
CHAMPOSA VII チャンポサ	7. 0 0 7	2. 0 0 2	. 7 5 1	4. 0 0 4	1 3. 7 5
ABRACADABRA アブラカダabra	4. 0 0 4	. 7 5 1	4. 0 0 4	5. 0 0 5	1 3. 7 5
CONTAINER コンテナー	3. 0 0 3	6. 0 0 6	6. 0 0 6	. 7 5 1	1 5. 7 5
JUNO V ジュノ	8. 0 0 8	3. 0 0 3	2. 0 0 2	3. 0 0 3	1 6. 0 0
CARAT VII カラット VII	5. 0 0 5	7. 0 0 7	8. 0 0 8	9. 0 0 9	2 9. 0 0
INSATIABLE インセシャブル	2. 0 0 2	5. 0 0 5	1 4. 0 0 1 4	1 0. 0 0 1 0	3 1. 0 0
FUJIMO フジモ	1 0. 0 0 1 0	1 0. 0 0 1 0	5. 0 0 5	6. 0 0 6	3 1. 0 0
WINDQUEST ウインドクエスト	6. 0 0 6	1 4. 0 0 1 4	7. 0 0 7	8. 0 0 8	3 5. 0 0
PROMOTION VII プロモーション	9. 0 0 9	8. 0 0 8	1 4. 0 0 1 4	7. 0 0 7	3 8. 0 0
DIANE ダイアン	1 2. 0 0 1 2	9. 0 0 9	1 0. 0 0 1 0	1 2. 0 0 1 2	4 3. 0 0
CAPRICORNO カプリコルノ	1 4. 0 0 1 4	1 4. 0 0 1 4	9. 0 0 9	1 1. 0 0 1 1	4 8. 0 0
WILL 威尔	1 1. 0 0 1 1	1 4. 0 0 1 4	1 4. 0 0 1 4	1 4. 0 0 1 4	5 3. 0 0
		DSQ	DNC	DNC	



トヨコカップ ジャパンーグアムヨットレース'92プレビュー

写真は前回のレースシーン



冬から夏へ向うホットな戦い

昨年に引き続き、トヨコグループが冠協賛となった、ジャパン→グアムヨットレースのエントリーが10月末に締め切られ、最終的な出場艇が決定した。

12月26日油壺沖からスタートする、このレースにエントリーに名を連ねたのは10艇。その中には、昨年に続いてV2を狙う“摩利支天”、NORC石原慎太郎会長の“コンテッサX”、さらにこの今夏の鳥羽レースで完全優勝の“ラッキーレディV”などが含まれており、全長10.50mから21mを越える大小さまざまな参加艇が、それぞれ常夏の島グアムを目指す。

“摩利支天”は全回、驚異的なコースレコード（5日20時間19分32秒）を記録。今年は、トランスマックで総合3位に入るなど積極的な動

きを見せており、今回、どのような走りを見せるかが注目される。IORクラス優勝候補の筆頭であろう。

一方、本レース第1回目のレース委員長を努めた、朝河 清オーナーは、出場艇中最小の“ハーフタイム”で挑戦。同艇は、日本海レースで完全優勝しているだけに見逃せない。IORクラスは、この2艇に今回挑戦の“マリン・マリン”的3艇で競われる。

IMSクラスは総勢7艇。前記の“ラッキーレディV”をはじめ、関西で調子を上げている“メイセラー”や89年のハワイ→広島レースで総合優勝の“カゲロウ”などが気になる存在。これらに、4月に進水の“コンテッサX”が加わり、その走りが注目される。オーナーの石原会長も、政務の都合がつけば参加の

予定とのこと。当然、IMSクラスの優勝候補である。

トヨコカップ ジャパン→グアムヨットレース '92開催概要

主催：(社)日本外洋帆走協会

共管：マリアナスヨットクラブ

油壺ペイヨットクラブ

協賛：トヨコグループ

後援：グアム政府観光局

協力：コンチネンタル航空

スタート：12月26日正午

前夜祭：12月25日

シーボニアヨットクラブ

表彰式：1月5日

パシフィックスターホテル
(グアム)

トヨコカップ ジャパン→グアムヨットレース '92 出場艇 LIST

・IORクラス 3艇

YACHT NAME	SAIL No.	TYPE	OWNER	RATING	クラス	所 属
MARISHITEN	3826	N/M68	武田 勝彦	69.72	I	関 東
MARINE MARINE	4051	YOKOYAMA 39	山村 俊太	30.11	II	広 島・布 刈
HALF TIME	3001	YOKOYAMA 35	朝河 清	25.93	III	三浦・シーボニア

・IMSクラス 7艇

YACHT NAME	SAIL No.	TYPE	OWNER	GPH・ハンディキャップ	所 属
MEISEIR	4230	ELLIOTT 12	金田 直己	554.60	大 阪
CONTESSA X	188	FRERS 48	石原慎太郎	557.50	三浦・油壺
LUCKY LADY V	4591	SAYER 12	稻葉 文則	576.70	熱 海
TAKA	328	LIBERY 47	水川 秀三		横 浜
MORE JOY SIETE	386	BNT 41S5	石川 幸久		三浦・油壺
KITTY	3342	VDS 71	山内 広光		大 阪・堺
KAGOME	4066	スタイマン 46	和氣五一郎		岡山・牛窓

(1991.11.15)

小名浜～大洗外洋ヨットレース と，“弥勒” 優勝までの足跡

NORC常盤支部

ホームポートの霞ヶ浦で

第7回小名浜（福島県）～大洗（茨城県）外洋レースの現在までの結果と、“弥勒”優勝までの足跡を駆け足でレポートします。

そもそも'83、'84に小名浜マリーナの早期完成を願って、新井洋一氏（現 大阪新空港のおえらいさん）手作りの悠子杯（子宝に恵まれなかつた新井氏が、ようやく誕生した長女の名前）がなかなか出来ないマリーナと合わせて願い、記念したレースに端を発します。福島・茨城県の両県にまたがる約45マイルのレースで、毎年ファーストホーム賞（はやくできるでしょう？）である悠子杯の争奪戦となります。

注：下記表参照

レース結果を見ると、面白い事に当レースのホスト役の大洗フリートの艇が、まだ1度も登場していません。“WAVE”(DOG.42 旧ナチ)、“マドンナ”（旧オケラ）など大型艇を配しているので……。それに反して我等霞ヶ浦からの陸送組（ノバと弥勒）が小まめに憎まれています。'89のレーはスタート直後から



本年までのレース結果（悠子杯）

年度	艇名	ホームポート	艇種	プロフィール
1983	松風	小名浜	ヤマハスカンピ	小名浜を中心とするショートレース
1984	松風	小名浜	ヤマハスカンピ	現常盤支部長松井利簡氏オーナー
1985	モンスター	那珂湊	自設計自作1/4	第1回小名浜～大洗外洋レース
1986	ブーメラン	那珂湊	ST-30	鳥羽レース遠征艇
1987	ノバ40	霞ヶ浦	HAYA-30	ヘルムに紹介されたカスタムレーサー
1988	シーズン	那珂湊	YOKO-30	千葉県柏の構内兄弟の新艇
1989	ECHO-II	小名浜	輸入艇45?	明星大学所有艇
1990	シーズン	那珂湊	YOKO-30	ノバが狙った2連勝をものにする
1991	弥勒	霞ヶ浦	U-30 自作	'90の2位に続きようやく勝たせてもらう

強風になる、“ノバ”はディスマストなど、微風から強風までの本当の意味での外洋レースを我々は楽しんでおります。

不思議な事に小名浜～大洗外洋レースは、手作りの悠子杯らしく、記念すべき第1回は“モンスター”（クォータートンクールドを狙った自設計、自作の艇）ですし、第7回のNORC常磐支部設立記念レースも、“弥勒”（V-30、自作の艇）というのも何かの因縁ではないかと思っています。

我々弥勒グループは、当時霞ヶ浦でミニトンを中心に活動していたグループで、'85年の第1回のレースには情報が入らず不参加で、安藤氏が手中にした思いを必ず我々のもと、一念発起して、ミニトン（V-23）でエントリーしたいと考え、小名浜の松井氏に連絡すれば、24フィートでなければダメですとの冷たい話でした。それではと自作の強みで、1

フィートのプレーニングボードを2隻分、“ADONIS-JR”と“TAKE FIVE”的ものを徹夜に近い状態で作り、ようやく初エントリーとなりました。以来'89年の第5回まで、ミニトンで頑張りました。その結果、今年も帆走指示書の中に、一行23フィートの艇でも実績のある艇は参加資格があると記せられていました。

そもそもアルコール変調のパーティの席で、悠子杯の生みの親の新井氏に『手作りの杯は、手作りの艇で取る』と宣言してしまう。何をどう間違ったか、4人の共同オーナーでスタートした“弥勒”（V-30）は、昨年の春進水後、初陣の鳥羽レースでは、白いセイルで御前崎の凧につかまるまでは、ハイテクセイルの1クラス上の艇まで、1隻2隻と抜く走りをし、ベタ凧ダレ下がるダクロンを横目で見ながら、ハイテクセイルの艇に抜かれて、皆で大喜びをしました。地元の初陣の小名浜～大洗レースのでは、またもや微風のレース。ハイテクセイルの

“シーズン”（YOKO 30）に勝ち奪れ、今年は昨年よりも研ぎ込んだボトムで白いセイルままエントリーし、そのボトムの滑りが今回の優勝に結びついた様です。

今後小名浜、大洗共にマリーナが完成すれば、艇の大型化及びハイテク度の激化が予想されます。しかしながら、何しろ手作りの悠子杯です。風神様やボセイドン様は粹な事を2回もなさったのですから、何かの記念になるイベントの時には、手作りの艇に勝利の女神が微笑むと思って信じて疑いません。

もう古い話になりますが、“チタ”のトップ引き（第1回レース専門優勝）など、例がない訳ではありませんからね……。

今度また皆様とレースでお会いする時には、白いセールでも、ボトムだけはパーフェクトな手作りの艇がいる事をお忘れなく。

弥勒グループ共同オーナー 伊藤猛



大浜フェリーターミナルでの表彰式



NORC東海支部広報 河内 道夫

毎週末の台風襲来で、せっかくの休日にセーリング出来ず、いささかうんざり気味の各フリートでしたが、9月22日のレース当日は、幸いにもそのスキ間をぬい、久しぶりに陽射しの強い、ビールのおいしい日となりました。

三河湾の西浦半島沖に、三河湾周

辺から32艇の参加艇（レース艇、ミニトン、クルージング艇）が集まりました。

『デニスコナー・カップ』は、昨年、あのアメリカズカップの勝者・デニスコナー氏が来日し、支部の東海フェスティバルで講演をしていただいた折りに、記念のレースに対して氏から寄贈されたものです。支部

では日本で初めて、いや世界で初めての『デニスコナー・カップ』を大切にしていきたいと思っております。

レースは南西の風5mの中、オリンピック・コース+ソーセージ・コースの12Mで行われました。中秋の名月に当たる日であるため、三河湾ではめずらしい潮の影響からか、久しぶりに30艇ものフリートによるスタートのためか、2回のゼネラルリコールとなり、しっかりとスタート練習もできました。

潮も風の振れもあまり大きくなかったため、レースフリートは順調にコースを巡りトップ艇と最終艇では周回遅れも出ましたが、腕ためしには適当な風とコースで、楽しいレースを行うことができました。

総合成績は“JUST 6 (YOK-33R)”が優勝しましたが、この秋の『ジャパンカップ』に登場する艇で、このレース終了後片付けもそこそこに三崎に向けて出港していきました。



スタート 1991/9/22 11:40 西浦沖 12マイル 風 5 m/s 235-245°

総合順位	クラス順位	艇名	艇長	番号	艇種	CR値	時分秒	着順	TAI	修正秒
1	A-1	JUST 6	堀田 和正	3 8 4 1	YOK-33S	8.35	13:38:12	6	630	-468
2	A-2	VIND 7	小林 義彦	3 6 0 0	TAK-42	10.50	13:30:14	2	588	-442
3	A-3	CHALLENGER	長谷川富延	4 1 0 2	N/M-40	10.30	13:31:18	3	591	-414
4	A-4	CHIGUSA	丹羽 千蔵	3 8 5 4	IMS9.5	8.30	13:39:39	7	631	-393
5	A-5	TERA JAPAN	国分 孝雄	4 2 9 5	X-119	10.20	13:33:38	5	593	-298
6	B-1	PRIMERA II	築山 卓佳	4 3 7 4	YAM-30SII	7.25	13:46:27	10	657	-297
7	B-2	ELDRAD	五藤 敏	4 5 4 2	YAM-31S	7.75	13:44:37	9	644	-251
8	A-6	CARRERA	渡辺 行彦	2 2 1 0	FARR-43	11.00	13:32: 0	4	580	-240
9	A-7	FLANKER	河辺 丈士	2 6 3 4	LODGA-38	12.20	13:28:33	1	562	-231
10	B-3	CARRIBIAN QUEEN		1 1 1	YAM-31S	7.90	13:44:32	8	640	-208
11	B-4	リバーアイランド	川島 浩嗣	4 0 0 9	SWING-31	7.45	13:47:34	11	651	-158
12	B-5	長良	矢野 敏邦	3 7 0 6	YOK-32	7.40	13:48:33	12	653	-123
13	B-6	NARUMI-7	竹内 靖	4 1 7 7	YOK-32	7.60	13:53:42	14	648	246
14	B-7	SAIKI	壁谷 繁雄	1 7 0 8	YOK-29	6.80	13:58:34	16	670	274
15	C-1	e f	畔柳 誠治	4 4 7 7	YAM-23II	5.40	14: 9:23	21	718	347
16	A-8	Sexy You	壁谷 辰己	4 3 7 1	BEN-385S5	8.95	13:51:59	13	617	515
17	A-9	ハリマオ	藤山 卓男	4 6 0 1	SWING-34	8.00	13:57:27	15	638	591
18	B-8	MERCURE	大矢 隆	3 2 1 1	YAM-30S	6.85	14: 6: 9	20	668	753
19	B-9	FUEGO III	田中 雅子	3 8 1 1	NISSAN-30	7.00	14: 5:23	19	664	755
20	B-10	SUPER WAVE	長坂 収	3 3 4 4	YAM-30R	7.70	14: 2:34	18	645	814
21	B-11	NOAH VII	山田 隆雄	4 1 6 7	YOK-30R	7.80	14: 2:30	17	643	834
22	C-2	ARMIS	稻垣 錦一	3 7 2 8	YAM-25ML	5.40	14:18: 6	22	718	870
23	C-3	CRUX	近藤 猛	1 1 5	YAM-23II	5.40	14:20:44	23	718	1028
24	C-4	クプクブ	滝 和己	1 1 2	YAM-23II	5.10	14:28: 2	25	730	1322
25	C-5	T & B	近藤 資治	1 1 4	YAM-25ML	5.40	14:32:33	28	718	1737
26	B-12	ミーティア	牧野 保	4 0 3 7	YAM-30SII	7.30	14:21:41	24	655	1841
27	B-13	C 2	石川 信雄	3 3 9 8	YAM-30R	7.45	14:28: 2	26	651	2270
28	B-14	うらなみ VII	市川 勇	3 4 8 4	TAK-31C	7.50	14:30:13	27	650	2413
	C-	HORIZON	日置 敏昭	1 1 3	YAM-23IIEX	5.40		DNF	718	
	C-	夏杓	吉川 治哉	1 1 0	ソレイユボン	5.50		DNF	714	
	C-	FINCA	岡本 和秀	1 1 6	YAM-23II	5.40		DNF	718	
	C-	YAKO 3	佐藤 英次	3	YAM-25MLIB	5.40		DNF	718	
	B-	CORRER	長谷川五男	4 1 3 8	SWING-28	6.75		DNC	671	
	A-	バラフレニアン 7	荻須 文一	4 0 0 4	X-99	8.95		DNC	617	

NORC総会等諸会議及び関東支部総会等会議のご通知

例年のとおり下記の会議が開催されます。今回の議題は、予算決算の審議及び任期満了に伴う新理事の専任等重要案件がありますので、会員各位に おかげで、万障繰り合せのうえご出席をお願いいたします。

NORC専務理事 清水栄太郎関東支部長 並木茂士

関東支部 代表部会 総会
日時 平成4年2月15日(土)

1300~1400 関東支部平成4年度第1回代議員会

1400~1500 同上 第1回総会

NORC 理事会、代議員総会

日時 平成4年2月22日(土)

1300~1440 第118回 理事会

1440~1540 第14回 代議員会

1540~1610 第119回 理事会

1610~1700 第36回 代議員会

場所 NORC、関東支部両会議とも下記会議場

国立教育会館 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3

Tel03-3580-1251 (文部省隣、地下鉄虎ノ門下車)

第29回 小網代カップレース成績表

I.O.R クラス

91.11.23 スタート (11時0分) 距離 65M レース委員長 平賀 威 (かまくら) 副委員長 吉岡久光 (波勝)

S No.	Boat Name	Owner Name	Type	Rating	TA	フィニッシュ時刻			竜王回航時刻			修正時間			着順	修正順位
						H	M	S	H	M	H	M	S			
3290	海太朗	千葉 育夫	farr 44	35.07	116.51	22	55	51	18	15	9	49	38	1	1	
4500	からす	斜森 保雄	tak 38	30.85	142.90	23	28	53	18	30	9	54	5	3	2	
3606	BOY	山田 隆	farr 40	30.65	144.28	23	41	13	18	45	10	4	55	5	3	
4128	海坊主	岡本 通	far 33	24.57	194.11	1	17	13	19	20	10	46	56	8	4	
3306	RIPLLE Ⅲ	裕 俊弘	yok 30sr	23.47	205.14	2	5	46	19	35	11	23	32	12	5	
4147	CHAR CHAN	木原 和喜	tak 3/4	24.52	194.60	2	4	10	19	58	11	33	21	11	6	
3002	SYLPHIDES	蒲谷 和行	farr 3/4	24.59	193.92	2	17	9	19	15	11	47	4	14	7	
3530	SUMMER KNOWS	高村 宏	tak 34	24.74	192.47	2	22	43	20	8	11	54	12	15	8	
2182	KELONIA	大谷 正彦	yok 33	24.12	198.53	2	36	41	20	13	12	1	36	17	9	
3494	ARC-EN-CIEL Ⅱ	岸本 忠平	yak 30n	22.61	214.32	3	30	20	20	20	12	38	9	19	10	
3228	ALPHA	伊藤 彰男	yok 32	22.95	210.63	3	37	21	20	40	12	49	10	21	11	
2221	梓	杉村 直樹	yok 33	24.53	194.50	3	45	3	20	45	13	14	20	22	12	
4324	APHRODITE Jr.	菅野 隆	yok 32s	22.94	210.74	4	3	8	23	14	13	14	50	24	13	
2422	青葉	福田 義一	yok 40f	30.82	143.10	2	52	8	20	1	13	17	6	18	14	
3018	DONKEY-IMPULSE	内藤 恒夫	x-3/4	24.62	193.63	4	19	1	20	48	13	49	15	26	15	
3896	紫魂	土橋 照泰	x-99	29.77	150.54	3	36	24	23	20	13	53	19	20	16	
389	NADJA Ⅳ	白崎健太郎	tak 39	29.00	156.24	4	0	55	21	45	14	11	39	23	17	
2212	衣笠	鈴木 康之	sk 34	23.56	204.21	5	24	32	21	50	14	43	18	28	18	
3501	SUNN BLUME	戸田 宏	yok 31	22.52	215.31	8	47	7	22	56	17	53	52	8	19	
2677	GREAT PEOPLE	藤野 真子	yok 31	22.68	213.55	8	48	40	23	20	17	57	19	21	20	
4282	STAR & STAR	吉村 茂	dav 44	33.98	122.86	DNC			DNC			DNC			—	
2112	FUJI Ⅲ	藤本 達雄	fre 45	36.67	107.72	RET			RET			RET			—	
3901	SPRING	新堀 武儀	J33	30.99	141.94	DNC			DNC			DNC			—	
1978	SERENDIPITY	中野 昭	yok 33r	24.97	190.28	DNC			DNC			DNC			—	
3518	は組	野口 隆司	yam 30r	22.71	213.23	RET			RET			RET			—	
4379	再見 Ⅱ	高橋 宣博	yok 30r	22.28	217.98	DNC			DNC			DNC			—	
3510	TRACER	三宅 智久	tak 31f	22.30	217.76	DNC			DNC			DNC			—	
3387	BASIC	小板橋博行	tok 28	21.58	226.03	RET			RET			RET			—	

IMSクラス (TAs:548.0)

188	CONTESSA X	石原慎太郎	fre 48	—	557.5	23	19	38	18	27	12	9	21	2	1
4444	RACINANTE	大口 真司	bent53f5	—	548.0	23	32	58	19	15	12	32	58	4	2
1579	しょうがく坊	神保 和也	muir 41	—	576.4	0	8	51	19	25	12	38	5	6	3
4635	ISIS Ⅱ	北中 将博	deh 36db	—	647.5	1	45	54	19	56	12	58	7	9	4
4591	LUCKY LADY V	稻葉 文則	sayer 40	—	576.7	1	7	5	19	57	13	35	60	7	5
4425	NO PROBLEM	内海 哲	bentf415	—	628.9	2	34	45	20	45	14	7	7	16	6
3335	織姫	古川 保夫	fre 41	—	611.2	2	15	40	20	26	14	7	12	13	7
1179	HAMU HAMU	大儀見 薫	muir 42	—	564.6	1	57	10	20	39	14	39	11	10	8
312	はやとり	草間 信二	x-372	—	642.1	4	3	34	21	39	15	21	38	25	9
1521	CYGNUS V	嶋田 武夫	fre 38	—	619.4	RET			RET			RET			—
1465	MAUPITI	岩田 穎夫	fre 38	—	623.4	RET			RET			RET			—
4636	SEAHAWK	世良 直彦	bent f41	—	642.0	RET			RET			RET			—

CRクラス (TAⅢ)

1044	TELEMATIQUE	高城 昌彦	jean 34	8.20	574	4	43	48	22	0	7	21	58	27	1
4352	BLACK SHEEP	熊沢 蕉	Indg 50	12.60	453	6	39	46	22	40	11	29	1	29	2
2690	くろしおⅢ	藤村 真示	nak 33	7.75	592	RET			RET			RET			—
199	SALMON Ⅲ	飯島征四郎	ori 33	6.95	628	RET			RET			RET			—
1733	U.F.O.	川島 正通	yam30s11	7.10	621	DNC			DNC			DNC			—

クルーザーレーティングのお知らせ

関東支部C R委員会

クルーザーレーティングが誕生して満5才を迎えました。今では全国に所有艇が約700隻にまで普及しています。フリートレース、クラブレースにクルーザーレーティングシステムが使用されるだけでなく、支部レース、本部レースにまで採用される様になりました。

'90、'91の『鳥羽パールレース』の参加艇数は、I.O.Rクラスを逆転し、100隻を突破する程となり、今後も増加する傾向です。

さて、この様で発展したグループレーティングにも悩みや問題点があります。

問題点

- 同一プロダクション艇であっても計測値のバラツキでレーティングが違う。
 - 計測環境の違いによる計測値のバラツキ
 - メーカーの製造誤差による計測値のバラツキ
- プレーニングボード、プロペラ等、改造、変更のデータメンテナンスがうまく行われていない。
- 艇の売買による証書の変更（オーナー、セールNo、レーティング）がなされていない。

対応策として大きく2点に分けて検討して参りました。

- S. T. D. データの採用
- 更新制度の導入

この2点をかいつまんで説明します。

1. S. T. D. データの採用

スタンダード項目……ハルデータ

準スタンダード項目…プロティングデータ、リグデータ

否スタンダード項目……リグデータの一部、セール、

プロペラ、船令。

現在までに、S. T. D. データを採用している艇種。

YAM-28S YAM-30S II YAM-31S

YAM-34S SWING-31 EDVノーマル30

EDVプレーニングボード30

STDデータを採用する事により、同一プロダクション艇の計測値が統一される為、レーティングの大きなバラツキは少なくなります。

2. 更新制度の導入

更新制度の導入により、STDデータ採用にあたり、同一艇種のレーティング値のバラツキを修正するスタートラインとなる。又、艇の改造、変更等のデータメンテナンスが行われ、より公平なレースを楽しむ事が出来ます。

更新期間……3年毎

更新費用……有料

詳細については、次号からのOFFSHOREに掲載して参ります。

年会費値上げについて

財務委員長 児玉萬平

平成3年の代議員会、総会においてご承認いただきましたが、協会の健全な財務体質を維持するには、経常収入（会費、登録料ほか）と経常支出（管理費、間接事業費、会報発行費）のバランスがとれていることが望ましく、現在、会員一人当たりにすると約4,000円の不足になっております。つきましては、4,000円のうち半分はコストの削減努力によって、残り2,000円は、会費の値上げによってカバーしたい旨を、上記会議の折りご説明させていただきました。物価高騰の折り、8年間値上げをしていない事と併せまして、皆様のご理解のもとに平成4年度から、一律2,000円の年会費値上げを行わせていただきます。従いまして、平成4年度から年会費は、特別会員 22,000円 正会員 9,000円

準会員 5,000円 となります。

なお、入会金につきましては、現行のまま据え置きを継続します。

※支部基金を載いている支部もございますので、ご不明な点は所属支部へお問い合わせ下さい。

以上、よろしくご了承戴きたくお願い申し上げます。

'92年東京国際ボートショウにNORCコーナーを設けました

海事思想委員会 朝河 清

'92年2月11日～16日まで、東京・晴海、国際見本市会場にて東京国際ボートショウが開催されます。

記

92年ボートショウ出展計画について

①目的

会員及び一般ヨット愛好家に親しみやすい協会のPRと、NORCの会員増を計る

②実施内容

1. NORC会員のおさそい

2. NORC事業のPR

3. NORC会員からの会費納入受付

4. ヨット教室の案内

5. その他

③会場 南館2階 (No40)

同期間中ボランティアでブースでお手伝いいただける方（特に女性）を募集します。

NORC (3504-1911) 小山までご連絡下さい。

OFFSHORE BRIEFS

Abstracts of selected articles from a previous issue translated for international readers.

Volume 196(October, 1991)

Admiral's Cup 1991 (Pages 2 to 6)

We overwhelmed famed Australian team by Ryoji Oda, Team captain.

Can any other sporting conventions have clear team color of each country as the Admiral's cup? French, the winner of the series, expressed their characteristics rather than national power. Their judgements were extremely perceptive in last two races.

Italians and Americans were the closest to the victory in earlier forecasts. They were well prepared and made us feel uneasy. Italian crew members were already settled more than a year beforehand and seemed just waiting for the trophy. Despite the expected victory by a wide margin, Italians had their hard times. American team was really "American". Though CHAMPOSA, lacking regular helmsman J.KOSTEKI was a bit less impressive, enthusiasm of the owner was distinguished. Especially, one-ton and two-ton teams were just for nothing but to win.

The home team, British took advantage of their situation and was a tough opponent to others.

How about the Japanese team? Their power, boat potential or crew skill were veiled throughout the series. Australians, who had once hold the America's Cup, were in their worst condition ever.

After the close game, we won by a slim margin.

The letters "JAPAN" were engraved on the Asia-Oceania Cup, Hong Kong Trophy, one of Admiral's

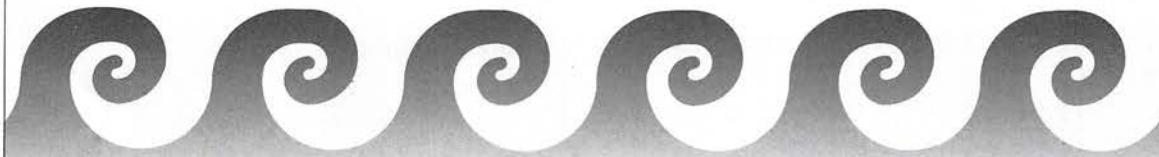
cup trophies. The year 1991 is commemorative for Japanese team, when they made a "flaw" on the Admiral's Cup first time.

Helmsmen of three boats, Toshio Toya of WILL, Makoto Nakano of SPICA and Satoshi Nishigaki of CARINO contribute their notes. Farr-designed 50-footer WILL was newly built at MCC Onaghy in Australia. Other two boats were chartered. WILL came in first in an inshore triangle race and did second both in the 'Channel' and the 'Fastnet Races.'

In the latter, WILL led the race until being outstripped by CORUM, who took different course from others. Although SPICA finished last of the class, crew members including Americans and British made excellent teamwork. CARINO suffered unlucky broken mast in the 'Corum Trophy race.' They strengthen their determination to aim at the national victory.

18th AWA-ODORI yacht race (pages 8 to 11)

AWA-ODORI is a mid-summer dynamic and energetic folk dance festival of Tokushima, a city in south-east Japan. It has been accompanied by a yacht race for 19 years. Over 100 boats participated in 25-mile course race under perfect weather condition with around 15 knots of northerly wind. The participants joined the dance parade and frolicked after the race. They plan to appear in San Diego to root for the Nippon Challenge Team with Awa-Odori dancing parade.



第11回沖縄レース参加艇プロフィール

今月号よりエントリーした艇について順次紹介していきます。



ハーフタイム



ラッキーレディ

IORクラス

艇名：HALF TIME

＜横山一郎 設計36フィート＞

オーナー：朝河 清／井本 邦彦

朝河氏は海事思想普及委員長及び会報小委員長

“HALF TIME”は87年3月に進水したIORボートで最近では神子元島レースに総合優勝している。HALF TIMEは朝河氏にとって4艇目のレースボートで、3艇目までは『がめら』を艇名にしていた。あのくすんだグリーンの艇である。

がめらは日本でレベルレースが花やかだった75年頃から活動しており、エクメスポーツだった1世ではレベルレース2位、小綱代カップ優勝が

ある。パサトーレバカンスの2世では、'78洲本～小綱代レースに優勝している。『がめら』の名声を決定的なものにした3艇目のがめら(TAK 31)では'84の日本縦断レースでは3レーストータルで総合優勝した。又、'85日本海レース(江差～ナホトカ)では総合2位であった。HALF TIMEになってからは小笠原返還20周年記念レース'88東京～小笠原レースで総合優勝、'89日本海レース(ナホトカ～室蘭)でも総合優勝している。

朝河氏のモットーは「楽しくセーリング」の精神であり、今後とも幅広くレース活動を続けるとの事であった。



稲葉氏

IMSクラス

艇名：Lucky Lady V

＜ジョン セイヤー設計40フィート＞

オーナー：稲葉文則

熱海・伊東フリート

キャプテン

現在の“Lucky Lady V”は今年3月に行われたメルボルン～大阪カップクラスC優勝艇の元フライングフィッシュ。

7月の鳥羽レースでは、IMSクラスに登場し、185マイルを、約19時間で走り、完全優勝した。

稲葉氏は87年にトランスパックレースに旧“ロシナンテ”(TAK 46)で出場し、その後同艇を購入し、本格的レース活動を開始した。以後'87グアムレース、'88沖縄～小笠原レース、'88JAPAN CUP、'89オークランド～福岡、'89JAPAN CUP、'89グアムレースと同艇で参加してきた。'90KENWOOD CUPにも“Propaganda”で参加した。

稲葉氏の活動範囲は広く、ヨット以外にも山、ダイビング、スキーはセミプロ並であり、STCに参加する際はBMWのバイクで熱海から飛ばしてくる有様である。

“Lucky Lady V”は沖縄レースの前哨戦として'91グアムレースに参加する。

なお前出の朝河氏と同氏はヨットに理解のある、すばらしい奥様のおかげで、ここまでレース活動が続けてこれた事は、関東のヨット乗りの間では周知の事実である。



チャレンジャー



オセアニッド



ジャスト 6

Offshore

東 海



トランコムDS

玄 海

ステラ

フェアリー



ペネロープ

内 海



アイムソーリー アイムソーリー

今年度最も活躍したチーム。次々と艇を乗り換えて前進している。艇は変わったが春のコルムカップ、秋のジャパンカップ優勝。

熱意あるオーナーのもと、春のコルムカップ、秋のジャパンカップ優勝。





が選んだ 年間優秀艇

ドゥーピー



成生 (なりゅう)

近畿・北陸



シルフィード

シルフィード

今年は良い年でした。最後に年間支部別優秀艇の栄誉に輝き、喜びも倍増です。この喜びを皆と分ちあい祝杯を揚げます。(オーナー談)

関
東



海太朗



関東支部

IORクラス I ~ III :

海太朗

石原裕次郎メモリアルレース : A-1 クラス 1位

小綱代カップ 総合優勝

S T C 年間総合 1位

IORクラス IV ~ V

SYLPHIDES

日本ミドルボート選手権: IOR総合優勝

関東外洋ヨット選手権シリーズ: IOR総合優勝

J A P A N C U P クラス C 1位

STC年間総合2位

今年頑張った女性チーム: ガンダリーナII

石原裕次郎メモリアルレース(Bクラス 1位)



ガンダリーナのメンバー

玄海

「昨年につづいて 2 年連続優勝は嬉しいですね。信頼するクルー達、榎、八尋、古賀、橋本、北川、五十嵐、佐藤、皆よく頑張ってくれました。今年は台風19号の通過で、スタンションと桟橋が接触し 4 本とも内側に曲がってしまう被害がありましたが、それ位で済んでよかったですと感謝しています。来年も又連続優勝をめざして頑張ります。」

ステラオーナー 村山末明

東海支部

1. オープニングレース 4月7日

全艇 DNF

2. 五ヶ所湾レース 5月3日

優勝艇 トランコム D S : TAKE 1

オーナー名 武部 芳宣

今年推進した最新レーザーでジャパンカップにも IMS で出場の秋の東海チャンピオンシップにも優勝。

3. エリカカップレース 6月2日

優勝艇 オセアニッド

オーナー名 吉田貴彦

今年の東京ボートショーで見た MRX を進水させた最新艇。ジャパンカップにも出場。

4. 東海チャンピオンシップレース

8月31日 9月7日、8日

優勝艇 トランコム D S

5. デニスコナーカップ 9月22日

優勝艇 ジャスト 6

ジャパンカップに出場するために作った艇で過去には台風の影響などトラブルにみまわれて 3 年半目でようやく全レースにエントリーできた努力の艇。

6. ムーンライトレース 10月19日

優勝艇 チャレンジヤー

オーナー名: 長谷川富延

過去にパールレースでも優勝した支部の最有力艇で、常にレースの索引役。

内海

第16回舵杯レース

7月4日

クラスA優勝 カリーニョVIII FARR40

オーナー、スキッパー 古川浩二

日本を代表するレーサーの一人でもある。ビッグレースからお祭りレースと多々参加し、活躍している。

クラスB優勝 ESPERANT Y26S

オーナー、スキッパー 涠美隆

オーソドックスなプロダクションボートだが、大型艇軽量艇を抑えた見事な走りは印象的であった。

播磨灘レース

クラスA優勝 AR2

オーナー、スキッパー

稻継一洋

地元姫路を代表するレースボートでもある。高いハンデキヤップにもかかわらず良い走りを見せている。

クラスB優勝 ワンパクサンタ

オーナー、スキッパー

宝川一紀

1/4トンクラスのレーサーから展型的なファミリーセーラーに変った一人。

昔練した走りで最近のレースでは良い走りを見せている。



92 YACHT RACE GOLDEN WEEK SERIES
taka-Q Cup

日本ミドルボート選手権



レース日程(予定)

1992年4月26日(日)	第1レース
4月29日(祝)	第2レース
5月2日(土)	第3レース
5月3日(日)	第4レース
5月4日(祝)	第5レース・表彰式

「スタート！」「下！下！」「マスト・アビーム！」ミーティングの連続、ラフィングマッチ、怒号の嵐。今年も三浦に日本ミドルボート選手権がやってきます。質の高いレースと楽しいパーティをご用意して、皆様にお会いできることをお楽しみにお待ちしております。

時節がら周辺施設の混雑が予想されますので、宿舎の手配は早急にお願い致します。宿舎等のお問い合わせは
関東ミドルボートオーナーズクラブ事務局 事務局長 能條秀夫 横浜市中区山手町15-14 (株)五條建設内
TEL. 045(651)5200 FAX. 045(651)5300

神子元島レース航海記

ゼネットスキッパー 本多藏人



ゼネット

J 4241ゼネットスキッパー本多藏人

11月3日午前4時、眠い目を擦りながら合宿所のある逗子マリーナを出発した。艇は翌朝の早いスタートに備え前日葉山マリーナより廻航し係留しておいた。

ゼネットは今年5月に進水したJ-39である。チーム結成後2年目の我々にとって、フルメンバー8名のクルーのスケジュールはなかなか合わず、今回の神子元島レースは3回目のロングレースである。

午前6時前スタート海面に着き、ゼネットの名コック佐竹の作った軽い朝食を取り終える頃には、他参加艇も続々と集まり、スタート前の独特の緊張感が高まる。

0700 やや下有利なスタートラインであったが、ライン中央より充分なスピードでのジャストスタートを切ることが出来た。ウェザーマークをしようがく坊、コンテッサに続き3位で回航しスタートタックのまま0.50Zのスピンドルをあげる。先行するしようがく坊、コンテッサはややのぼり気味のコースを取っているが、我々は出来るかぎり艇速を保持

しつつ、落して最短距離をとることとした。

1100、風弱くなる。初島をスタートボードアビームに視認する。10時頃まで先行していた2艇がやや後方に見えて来た。

1200艇速を考えるとこれ以上落して走ることも出来ず、また伊豆半島に近づきすぎることもあり1250ジャイブし、神子元島に向けコースをとった。1330風がクロックに振れスピンドル、ライトジェノアをあげ、ポートアビームで快走する。後続艇はかなり後方に見える。1420神子元島を視認。

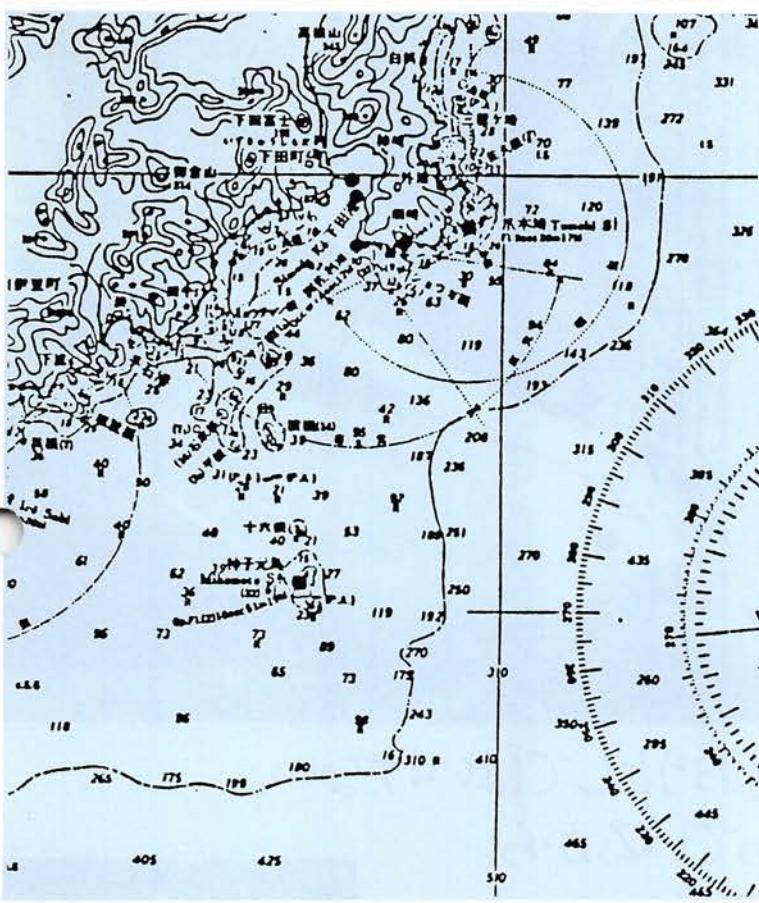
1500風はさらにクロックに振れポートクローズになり、これ以上振れると瓜木崎をかわせなくなる。風の強弱はあったが、幸いにして風向は、1600風向は安定し瓜木崎もかわせて神子元島まであと1.1マイルとなる。

島の最短距離を回るべく、数回のタックをくりかえす。初めて真近に見える神子元島を前にクルー全員に緊張が走る。1645神子元島灯台を0°に見て無事回航し、スタートボードアビームで一路フィニッシュラインを目指すが、19時頃まで反流のためS

OGがかせげない。利島の方位もほとんど変わらない。迷った揚句コースを大島に向けてとると、20時ころには風速もあがり半流から抜けられたよう、GPSのSOGも7ノットを示すようになった。この間にも風はクロックに振れ続け、0.50Zのスピンドルをスタートボードであげる。風速は徐々にあがり常に10ノットをオーバーする様になってくる。このままのコースで走ると風早崎をかわせなくなるため、ジャイブスピンドルアビームで三崎へ向けコースを戻す。2115風がアンクロックに振れたので再度0.50Zスピンドルをあげる。風速は17ノット位で安定していたが2230頃より20ノットをオーバーする様になり1.50Zスピンドルヘスピンドルエンジする。そのまま強くなると思われたが、風は風速、風向共に安定せず、NO2ジェノアと1.50Zスピンドルとを数回交換した。さすがにクルーにも疲労の色が見えはじめ口数も少なくなってきた。2400残航12マイル、城ヶ島灯台の灯火を視認する。このままでいけば2時間程度でフィニッシュできるとナビゲーターの高山から告げられると、我に全員元気づいてきた。0100さらに風は北寄りになり、最後はNO2ジェノアでフィニッシュラインを切った。

私の総評としては、今回の勝因は、独自のコースをとった事、クルー全員が良く食べた事だと思います。

最後に、まだまだ未熟な私たちを、支援して下さる神部オーナーと大会運営に尽力をつくしていただいた皆様、本当にありがとうございました。



IOR優勝 ハーフタイム

朝河 清

75年に会員になって以来、いつ回っても恐ろしい、神子元島、その灯台を型どったカップを手にすることが出来て感無量です。

以下にクルーリストを載せて長く記念にしたいと思います。

会員 7 5 2 1 1 朝河 清

会員 8 8 0 8 0 松田修二

会員 9 0 3 1 4 平本健二

会員 9 0 0 5 2 蒔田利彦

会員 9 1 0 4 3 亀田誠一郎

会員 9 1 1 4 7 平沢茂利

会員 9 1 3 3 3 水原一樹

会員 8 6 1 0 4 東山 晃

執行義信

以上



今月の表紙:三洋証券ニッポンカップ国際ヨットマッチレースで、2度目の優勝に輝いたピーター・ギルモアと、クルーメンバーたち
(写真/添畠 薫)



FIRST°5の後を、追おうとしてはいけない。 彼女は10年先を走っているから。

「速さ」がこのように美しかったことが、あつただろうか。

FIRST°5シリーズ

レーサーとしての帆走性能、洗練されたファッション性、そしてこのうえなく快適な居住性をも兼ね備えた新世代のレーザー＆クルーザー、それが FIRST°5 シリーズ。ひとつの奇跡ともいえる、このシリーズの誕生を語るとき、ベネトウの名のもとに集まつた4人の巨匠たちの斬新なクリエイティビティを忘れてはならないだろう。内装デザインは、フィリップ・スタークとピニンファリーナが担当。外装デザインに携

わつたのは、ジャン・ベレーとブルース・ファー。4人の叡知は美しく結晶し、10年先を走っている。

クルーズシステム

このシステムを利用すれば、たとえ少人数でも、スムーズなセーリングがエンジョイできます。アイテム・ラインアップは、メインセールE・ZIP PACK、ゼノア・ファーラーE・FLEX、リジッド・バング、バックスティンショナーなど、多彩。FIRST45①5, 41②5, 38③5のオプション。



	全長(ハル)	全幅	吃水	セール面積(メイン、#1ゼノア)	デザイン
FIRST32④5	9.68m	3.30m	1.70m	28.00m ²	27.90m ²
	35⑤5	10.60m	3.60m	1.80m	33.51m ²
	38⑥5	11.50m	3.75m	1.90m	38.67m ²
	41⑦5	12.30m	3.90m	2.20m	41.82m ²
FIRST45①5	13.90m	4.25m	2.15m	53.00m ²	58.00m ²
	53②5	15.75m	4.48m	2.45m	55.00m ²
FIR					

フィリップスターク—現代建築、インテリアの分野で世界的な人気を誇るアーティストデザイナー。
ピニンファリーナ—名車フェラーリなどのデザインで知られる、イタリア屈指の工業デザイナー。
ジャン・ベレー—フランスを代表する世界的ポートデザイナー。
ブルース・ファー—世界のビッグレースで圧倒的な人気を誇るポートデザイナー。

世界で最も愛されているヨット。ベネトウ
BENETEAU®
 日本総輸入販売元 ファーストマリーン

神奈川県三浦郡葉山町一色370 TEL.0468(76)1771 FAX.0468(76)1044
 大阪事務所／大阪市西区新町1-17-8ハイネス新町公園503TEL.06(532)9211



●カタログご希望の方は、左記宛お申し込み下さい。